

～ 健口と輝く笑顔のために ～

歯科衛生だより 会報

2025 August vol. **88** 発行人/武藤 智美 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

令和7年度 定時代議員会開催、新役員が選出される

令和7年6月15日(日)13時30分から、ステーションコンファレンス東京にて定時代議員会が開催され、会場には多くの方が参集された。

会場出席できない代議員は定款21条より議決権行使、委任状をもって出席とする旨の説明があった。

初めに、今年より「歯科衛生士憲章」から「歯科衛生士の倫理綱領」に変更され、16の条文を専務理事 岡田昌子が代表して読み上げた。

その後、物故会員に対する黙とうをささげたのち、議長には金森いづみ氏(愛知県)、副議長は川上三紀氏(愛媛県)、議事録署名人に川端登代美氏(福井県)、土屋奈美氏(滋賀県)が選出された。代議員数80名中出席者77名、議決権行使、委任状の合計2名、総数79名により、定款第18条に定める総代議員の過半数以上の出席で定足数を満たし審議に入った。



第1号議案「理事及び監事の選任に関する件」では、臨席した立候補者の自己紹介がなされ、定款第20条第3項及び役員選任規程第6条の規定に基づき、投票が行われ、立候補者

理事21名、監事3名全員が賛成多数で承認された。

第2号議案「令和6年度事業報告(案)に関する件」は副会長の久保山裕子より説明があった。第3号議案「令和6年度決算報告(案)に関する件」は常務理事の根岸麻理より議案書の説明があり、その後、「監査報告書」については、監事の渡邊洋子より

監査の結果説明があった。定款第20条第1項の規定により、総代議員の過半数以上が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって承認された。

第4号議案「日本歯科衛生士会代議員会運営規則、代議員選挙規則、会員規程の改正に関する件」が説明後、承認された。

第5号議案「会長候補の選定に関する件」では、定款第25条第3項の規定に基づき、武藤智美が会長候補に選出された。

報告事項では「令和7年度事業計画について」「令和7年度収支予算について」の説明があった。

会場では、日本歯科衛生士会前役員、選任された新役員や都道府県歯科衛生士会の代議員の皆様が対面でお会いすることができ、活発な質問やご指摘があり、重要な交流の場となった。令和7年度定時代議員会は拍手とともに閉会となった。



前会長 吉田 直美



学会雑誌(電子ジャーナル)の発行案内について

会員および一般の皆様にも広く周知するために、機関紙:歯科衛生だよりの一般向けカラー版(8月1日および2月1日発行号)を利用して、日本歯科衛生学会「学会雑誌」の発行をご案内いたします。

本号より掲載を開始します。ご確認をお願いいたします。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 広報委員会)

大規模災害時における練習画面のご案内 — 9月1日～7日 —

9月1日の「防災の日」に合わせ、日本歯科衛生士会のウェブサイト画面に、大規模災害を想定した「災害特別ページ」を掲載します。その画面から安否登録や安否確認等の練習を行うことができます。

練習画面の掲載期間は9月1日から7日までの一週間です。(期間終了後の登録データは削除されます)

災害は、いつどこで起こるかわかりません。ぜひこの機会に練習を行ってください。

また、本誌10頁に「災害歯科保健歯科衛生士の体制変更」および「災害歯科保健活動歯科衛生士実践マニュアル2025」の紹介記事が掲載されていますのでご一読ください。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)

会長就任挨拶

公益社団法人 日本歯科衛生士会 会長 武藤 智美



この度、会長に就任いたしました。吉田前会長には、業務の多様性、社会からの期待に沿った人材育成、人材確保、処遇改善、専門性に関することなど、様々な歯科衛生士の基盤を整えていただき、心より感謝申し上げます。

地方で勤務している私が、日本歯科衛生士会会長という大変重き任を担わせていただける理由のひとつに、ウェブを活用することができるようになった時代の流れの恩恵だと思っております。歯科衛生士への時代の流れも同様に勢いが増しております。この波にすべての歯科衛生士が乗り込み、責任を持ってその専門性を発揮できるよう支援して参りたいと思います。歯科衛生士の皆様には、上手に日本歯科衛生士会と都道府県歯科衛生士会をご利用いただき、研鑽を続け、歯科衛生士の交流を深めていただければ幸いです。

新執行部となりましたが、役員一同、全力で努めてまいります。皆様にはこれまで同様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



副会長 久保山 裕子

引き続き、副会長に就任しました。広報委員会や歯科衛生推進委員会の在宅・施設口腔健康管理委員会、災害歯科保健委員会を担当します。歯科衛生士会として、今後は専門歯科衛生

士制度など大きなテーマを関係団体に理解を深めていただきながら進めていく必要があります。現場で働く歯科衛生士が輝けるように、サポートをさせていただきたいと思えます。また今年度は75周年記念事業を計画しています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



副会長 河野 章江

この度、副会長に再任いたしました。生涯研修委員会、認定歯科衛生士委員会、国際協力委員会を担当します。微力ではありますが、本会事業の中核である研修事業をさらに

充実、発展させていきたいと思えます。各都道府県歯科衛生士会をはじめ全国の会員の皆様のご意見、ご要望を伺いながら、職務に尽力して参ります。引き続きご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



副会長 石川 奈保美

この度、副会長に就任いたしました。大変な重役を拝命し、身の引き締まる思いであります。地域歯科保健委員会、教育養成委員会、日本歯

科衛生学会を担当します。本会が会員の皆様にとりましてより充実した活動を行っていかれるよう、微力ながら尽力していく所存です。専門歯科衛生士の検討も始まっておりますので、都道府県会の皆様や会員の皆様のご意見やご要望などを伺いながら、それに応えることができますよう努めて参りたいと思えます。



専務理事 岡田 昌子

今期も専務理事を拝命いたしました。組織委員会、表彰審査会等を担当します。都道府県歯科衛生士会との連携を密にし、会員の声をより一層反映させ、活動内容の充実に努め

て参ります。また、事務運営の効率化と適正化を図ることで、信頼される会の運営を目標として、誠心誠意努めてまいり所存です。皆様と力を合わせ、より良い団体づくりを目指してまいりますので、ご指導、よろしくお願い申し上げます。



常務理事 根岸 麻理
(財務)

財務担当再任いたしました。令和7年4月適用の公益法人会計基準の改正については的確に対応してまいります。信頼される運営を推進するため尽力いたしますので、引き

続きのご協力をお願い申し上げます。



常務理事 村西 加寿美
(歯科衛生推進)

引き続き、在宅・施設口腔健康管理委員会を担当させていただきます。委員の皆様と共に在宅や施設、介護現場で活動する歯科衛生士にとって有益な情報等を提供できるよ

う尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



常務理事 須山 弘子
(認定)

この度、常務理事を拝命し引き続き認定歯科衛生士委員会を担当させていただきます。生涯研修委員会ははじめほかの委員会と連携

をとりながら職務に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



常務理事 山田 小枝子
(歯科衛生推進)

この度、常務理事を拝命いたしました。引き続き、教育養成委員会も担当させていただきます。全国歯科衛生士教育協議会推薦理事として、養成校と連携し組織拡大に向け努

力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ちゆう ゆう こ
常務理事 長 優子
(歯科衛生推進)

この度、常務理事を拝命し、地域歯科保健委員会を担当させていただきます。行政に勤務する歯科衛生士の人材育成と、地域歯科保健活動のさらなる推進に向けて、委員の皆さんと力を合わせ尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



すず き ひとみ
理事 鈴木 瞳
(生涯研修)

この度、理事に就任いたしました。生涯研修を担当いたします。都道府県歯科衛生士会と連携を図りつつ、研修内容の充実と利便性向上に努め、研修活動の活性化に貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



おお や とも こ
理事 大屋 朋子
(歯科衛生推進、認定)

この度、理事を拝命し、病院委員会、医療連携歯科衛生士委員会を担当いたします。委員の皆様とともに病院に勤務する歯科衛生士の業務向上や病院と診療所の連携など、臨床に活かせる情報を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



こ もり とも え
理事 小森 朋栄
(歯科衛生推進)

この度、理事に就任いたしました。診療所委員会、指導者等講習会企画運営委員会を担当させていただきます。歯科衛生士の専門性の向上と活躍の場がさらに広がるよう委員の皆様と共に務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



しも いけ ひかる
理事 下池 光
(歯科衛生推進)

引き続き、災害歯科保健委員会を担当させていただきます。JDATでの活動も始まり、災害時の支援活動を担う災害歯科保健歯科衛生士の充実、情報発信に委員の皆様とともに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ふじ わら な つ み
理事 藤原 奈津美
(学会・国際協力)

理事を拝命し、国際協力と学会を担当させていただきます。また、日本歯科衛生学会会長を拝命いたしました。歯科衛生士がより活躍できる組織づくりに尽力いたします。皆様のお力添えを賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。



わた なべ り さ
理事 渡邊 理沙
(広報・組織)

2期目の東海北陸ブロック理事に就任いたしました。併せて広報委員会を担当いたします。各県会と日本歯科衛生士会との連携・調整と、広報としての情報発信から組織強化につながるよう尽力いたします。よろしくよろしくお願いいたします。



みず ま り
理事 樋水 麻里
(組織)

この度、北海道東北ブロック理事に就任いたしました。担当各道県と日本歯科衛生士会との連携・調整を図り、組織の発展に努めてまいります。皆様のご指導とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



かわ しま たか え
理事 川島 貴重
(組織)

この度、関東信越ブロック理事に就任いたしました。各歯科衛生士会にご協力いただきながら、組織の向上と発展に尽力してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。



こ まえ みどり
理事 小前 みどり
(組織)

この度、近畿ブロック理事に就任いたしました。日本歯科衛生士会と近畿の6府県歯科衛生士会との連携を図り、組織力のパワーアップをめざして取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



しば た く み
理事 柴田 久美
(組織)

この度、中国四国ブロック理事に就任いたしました。担当ブロック9県と日本歯科衛生士会との連携・調整に努め、微力ながらも責任の重さを胸に、誠心誠意取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



やつ ひろ こ
理事 八木 浩子
(組織)

この度、九州ブロック理事に就任いたしました。担当各県会と日本歯科衛生士会との連携・調整に尽力し、歯科衛生士会のさらなる組織の強化・向上と、円滑な運営・発展に寄与できるよう努めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



わた なべ よう こ
監事 渡邊 洋子

新公益法人制度の趣旨を踏まえ、信頼と健全性を重んじ、監事としての責務を果たしてまいります。誠実かつ公正な運営の確保に向け、独立した立場から努めてまいります。よろしくお願いいたします。



たか はし ち づる
監事 高橋 千鶴

この度、監事として選任されました。本会の重点課題の取り組みや社会情勢の変化に伴う実践力のある事業展開に対して、監事の職務及び権限の役割を果たしてまいりたいと思っています。よろしくお願いいたします。



いま ぐら たかし
監事 今村 敬

外部監事として、公益法人制度が変わる中、外部知見を本会会務運営に参考の上取り入れて頂き、結果として引き続き適切な会務運営に資すると共に、国民からの負託に応えるべく適切な監査を進めて参りたいと存じます。

日本歯科衛生学会 第20回学術大会 参加登録のご案内

日本歯科衛生学会第20回学術大会は2025年11月2日(日)～3日(月・祝)の昭和医科大学上條記念館での会場開催および終了後のオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催となります。参加登録は、オンライン登録のみとなり、登録期間は、会場参加とウェブ参加の場合で異なります。

- 登録期間**
- ① 会場参加：2025年8月1日(金)10時～11月3日(月・祝)14時予定
※会場参加をされる方は、会場にお越しになる前に、必ずオンラインで参加登録を完了してください。
参加登録をされると、オンデマンド配信も追加費用なく視聴可能です。
 - ② ウェブ参加：2025年11月20日(木)～12月25日(木)10時予定
学術大会ウェブサイトでご案内します。

参加費 会員 7,000円 会員外 12,000円 ※別途システム手数料がかかります。

【登録方法】 日本歯科衛生学会第20回学術大会ウェブサイト内の「参加登録ページ」からお手続きください。
クレジットカード払いまたはコンビニ払いがご利用いただけます。 <https://jsdhm.jdha.or.jp/20th/>

【注意事項】

※パソコン、スマートフォンから24時間登録可能です。

- 2025年度の会費が未納の方は、会員としての取り扱いはできませんのでご注意ください。
- 登録後の変更、キャンセルは一切お受けできません。納入された参加費は理由を問わず返金いたしません。
- 発表者、参加予定の方は日本歯科衛生学会公式X(@jsdh_official)のフォローをお願いいたします。

【その他】詳細については、第20回学術大会ウェブサイトをご参照ください。

問い合わせ先 日本歯科衛生学会事務局 E-mail: gakkai@jdha.or.jp



日本デンタルショー2025 日本歯科衛生士会ブース出展のお知らせ

9月26日(金)～28日(日)にパシフィコ横浜で開催される「日本デンタルショー2025」において、日本歯科衛生士会では主催者様のご協力のもと、特設ブースを出展します。

ブーステーマは「つながる、広がる、歯科衛生士の未来!」

若手をはじめとする歯科衛生士の皆様に、実践的な学びと交流の場を提供するとともに、職能団体としての魅力も発信します。

主なブース企画

- **DHカフェ**
歯科衛生士同士の交流・情報交換の場です
- **多彩な働き方紹介トーク**
臨床・地域・教育など、幅広いキャリアパスを紹介します
- **インフルエンサー歯科衛生士トーク**
注目の歯科衛生士が登場予定です
- **体験コーナー(予定)**
プロローピングトレーニング模型やマナボットなど、企業協力による実技体験ができます



歯科衛生士としてのスキルアップや将来設計のヒントが得られる貴重な機会です。

全国の仲間と“つながる”3日間に、ぜひ足をお運びください。

JDS Japan Dental Show
日本デンタルショー2025
パシフィコ横浜 9/26(金)27(土)28(日)



Instagram



ウェブサイト

日本デンタルショー2025

第25回
日本歯科医学会
学術大会



◆会場：パシフィコ横浜 展示ホール ◆主催：一般社団法人 日本歯科商工協会

◆入場無料・事前登録制(詳細は公式サイトをご確認ください)

第10回「歯科衛生士の勤務実態調査」結果の概要

日本歯科衛生士会では、昭和56(1981)年より5年ごとに全会員を対象とした「歯科衛生士の勤務実態調査」を実施している。令和6(2024)年に第10回となる「歯科衛生士の勤務実態調査」を実施した。ここに会員の皆様のご協力に厚く感謝申し上げる。直近の就業歯科衛生士数は145,183人となり(2022年、厚生労働省)、前回調査(2020年)から2,423人増加している一方、未だ歯科衛生士不足は解消されていない。また、2024年12月に歯科衛生士の業務や需給等に関して具体的な検討を行うことを目的とした「歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会」が立ち上がり、歯科衛生士による浸潤麻酔行為についての議論が重ねられた。今後の歯科衛生士の役割や働き方にますます注目が集まっている。

調査結果は、質の高い歯科衛生士の人材確保・育成に寄与する多くの示唆を含んでいることから、今回の調査結果の概要を紹介し、歯科衛生士会として取り組むべき課題を提示する。全国の結果を提示した報告書とともに都道府県別に作成した報告書(都道府県別集計表)の活用を期待している。

本調査の実施目的と今回の特徴

本調査の目的は、日本歯科衛生士会会員の勤務実態を明らかにし、就業状況や業務の実施状況に関する基礎資料を得ることである。今回は、調査開始以来初となるオンラインでの実施をした。前回調査の令和元(2019)年以降の歯科衛生士を取り巻く環境の変化等を踏まえ、今回の調査では業務上のストレスやハラスメント等の新たな調査項目を追加した。調査結果を広く活用させるため、PDFにて閲覧可能となっている。

日本歯科衛生士会
ウェブサイト
調査報告書



第10回歯科衛生士の
勤務実態調査報告書



調査対象者と調査方法

対象者は、全国の日本歯科衛生士会の全会員15,177人(令和6年10月30日現在)、方法はWeb調査とし、郵送される会報に調査の概要と二次元コードを記載したチラシを同封し、さらにメールにてWeb調査のURLを送付し回答を得た。調査期間は、令和6年9月30日から11月30日までとした。

調査内容

主に就業状況、勤務先の労働条件・福利厚生、職場環境・職務、研究活動、認定歯科衛生士の資格取得状況、職業意識、離職・復職等に関する項目について調査した。設問は全164問で、就業状況や就業先等によって設問を分岐した。

結果および考察

1.回収率は35.5%と前回より減少

回答者数(回収率)は5,385人(35.5%)であった。前回調査の53.4%より減少、第7回平成21(2009)年の34.8%と同等であるものの、回収率の向上が課題となった。

2.回答者の年齢構成は50歳以上が半数を超えた

回答者の年齢構成は50歳以上の割合が増加し、今回初めて5割を超えた(図1)。令和4年衛生行政報告例(厚生労働省)と比較し、20~40歳代が少なく、50歳以上の割合は2倍以上であった。また、就業経験年数20年以上の割合が増加し、6割を超えていた。

3.歯科衛生士会の入会理由は「情報を得るため」、「研修を受けるため」

歯科衛生士会の入会理由(前回調査なし)は、「歯科衛生士のための情報を得るため」が77.7%、「研修を受けるため」が53.8%、「歯科衛生士の職能を守るため」が43.8%、「専門職として社会から認められるため」が30.0%、「歯科衛生士保険制度があるため」が12.8%であった。職能団体としての役割をより明確にし、周知活動を強化することが重要である。

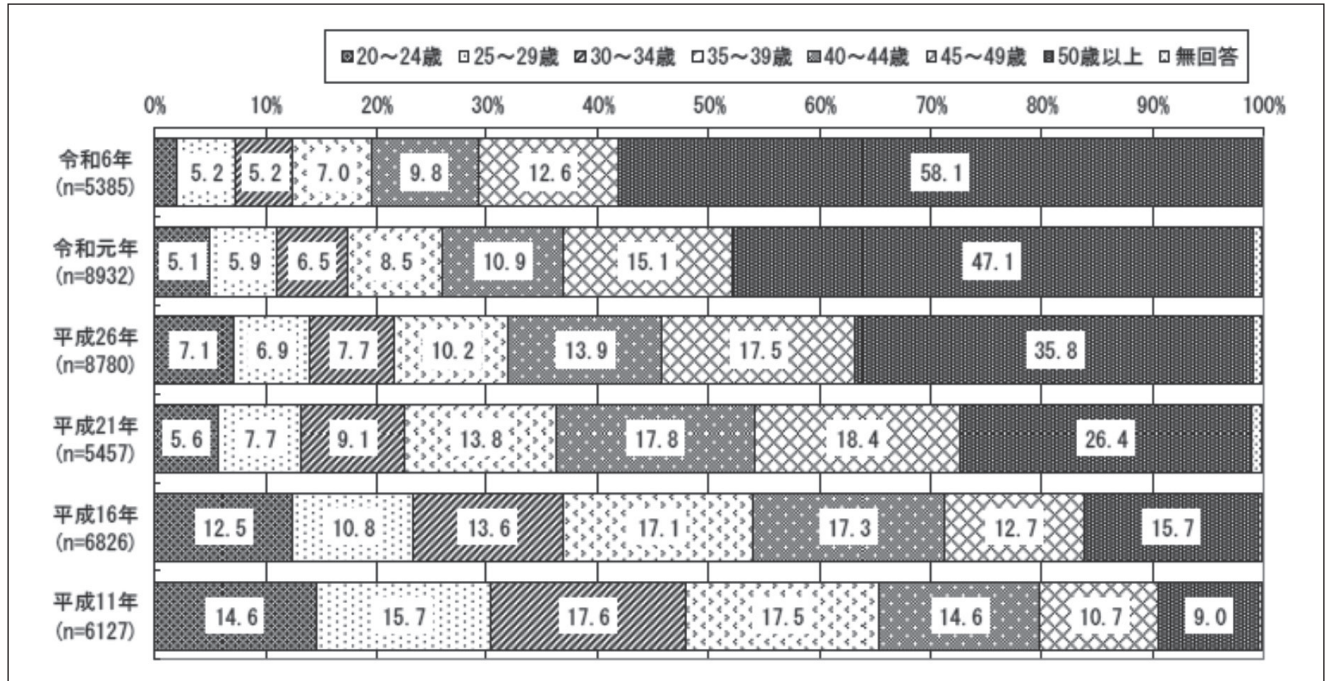


図1 回答者の年齢構成

4. 歯科衛生士としての 就業者は9割超、その6割が常勤

歯科衛生士としての就業者は91.5%（図2）、就業者のうち常勤者は58.0%であった。就業状況の傾向は勤務先によって大きく異なっていた。

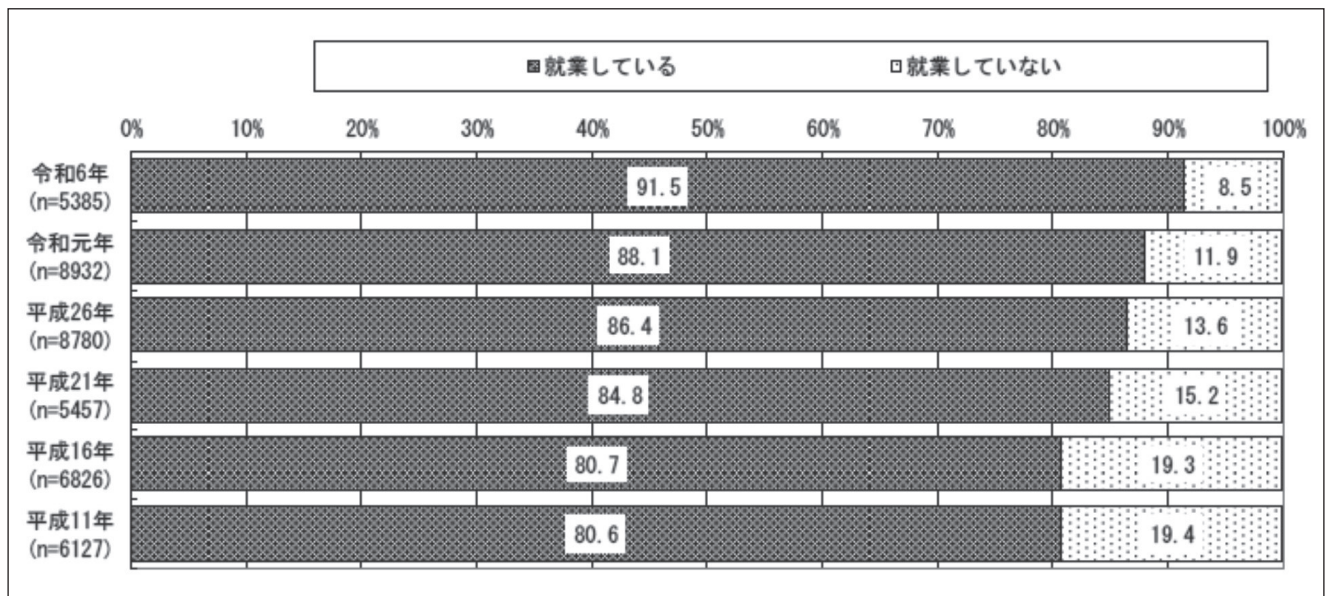


図2 歯科衛生士としての就業の有無

5. 就業している者の勤務先は、「診療所」の割合が微減、「行政」が微増

就業歯科衛生士の勤務先として最も多かったのは、「診療所」43.0%（前回49.6%）、次いで「病院・大学病院」17.4%（前回17.1%）、「行政」12.9%（前回11.6%）であった（図3）。令和4年衛生行政報告例の結果で示されている「診療所」90.1%、「病院・大学病院」5.1%、「行政」1.4%、「介護保険施設等」0.9%と比較すると、本調査の回答者は、「診療所」勤務者の割合が約5割であり、「病院・大学病院」、「行政」、「歯科衛生士教育養成機関」の勤務者の割合が高く、その傾向は年々高まっていることが特徴である。

6. 診療所・病院の歯科衛生業務はさらに専門的に

診療所・病院の歯科衛生業務は専門性がさらに高まっている。「周術期等の口腔機能管理の実施」において、診療所では前回38.2%から今回44.5%へ増加、病院・大学病院では前回75.8%から今回82.4%に増加した。このうち、「周術期等専門的口腔衛生処置の算定」をしているとの回答は前回59.9%から今回73.4%へ増加した。

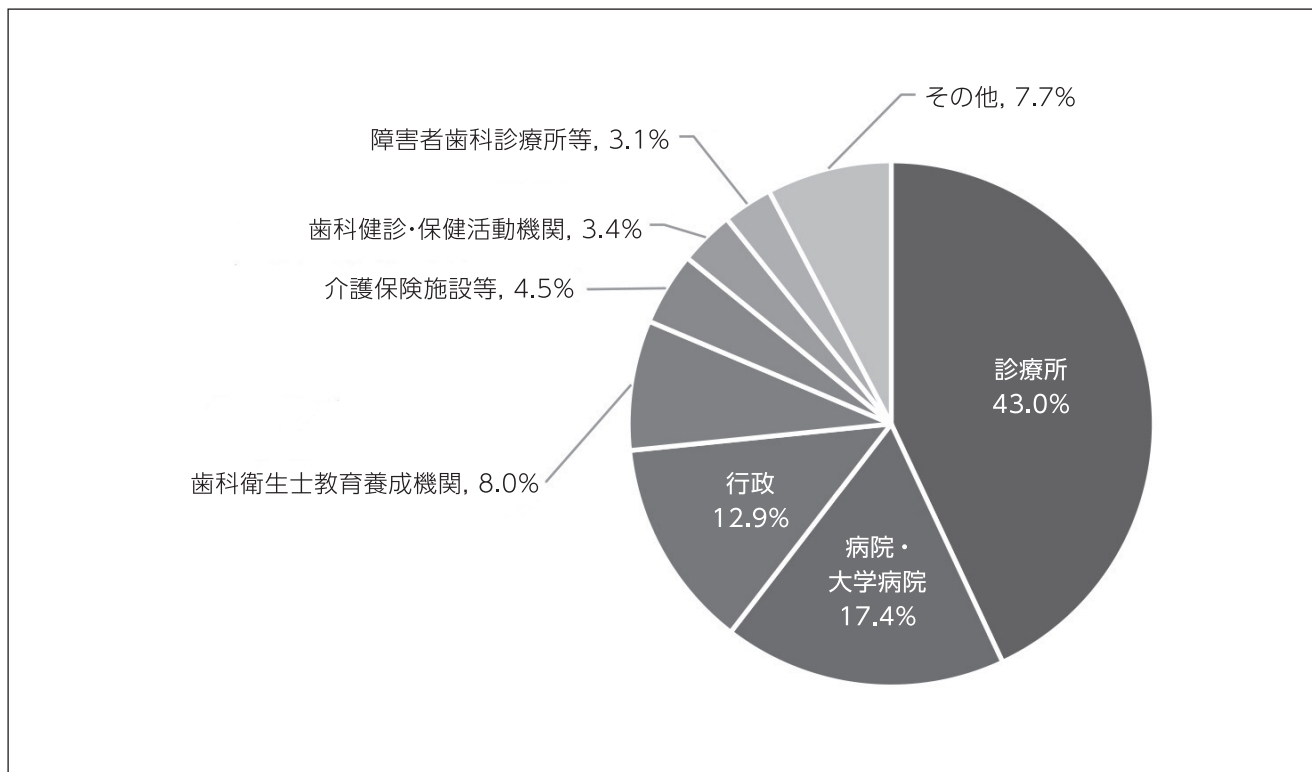


図3 就業している者の勤務先(n=4926)

診療所等における在宅歯科医療の実施状況については、「在宅患者への歯科訪問診療の補助の実施」39.7%、「在宅患者への訪問歯科衛生指導(居宅療養管理指導含む)の実施」38.3%、「ケアマネジャー・他職種との連絡・調整」29.7%、「摂食嚥下機能障害の間接訓練」24.7%であり、前回と比べ微増であった。今後も「医科歯科連携」、「全身管理」、「医療安全」、「訪問診療」等の業務がますます増大すると推察され、これらの領域の人材育成・確保が課題である。

7.行政、介護保険施設等において歯科衛生業務はさらに多様化かつ広範囲に

行政においては、コロナ渦の名残か、対人サービスを「行っている」が75.8%(前回89.2%)と減少したものの、企画・調整に参加している事業は、「母子保健」、「学校保健」、「介護予防事業」、「地域歯科保健医療計画」、「食育に関する事業」等がそれぞれ4割以上と、多岐にわたっていた。介護保険施設等での「口腔衛生管理」が92.8%(前回88.9%)、「口腔機能管理(摂食嚥下機能訓練等)」が65.2%(前回57.9%)実施されていた。また、協力歯科医療機関が「協力的である」と回答した者は81.3%(前回72.5%)、業務内容としても「口腔健康管理が必要な方を繋げる」が83.3%(前回74.6%)と増加した。以上より、行政、介護保険施設等における歯科衛生士の役割が認知され、さらなる多職種連携、歯科保健医療に関する企画・調整・評価等の役割と技能が求められていると言える。行政や介護保険施設等における課題は地域性が高く、行政の歯科衛生士、さらには都道府県歯科衛生士会も一体となり地域保健事業と介護予防を推進することが重要である。

8.歯科衛生士の専門性の確立

歯科衛生士の専門性を確立するためには、認定歯科衛生士の資格取得や研究活動も有効である。今回の調査では、約4割が今後認定取得の意向を示していた一方で、5割強が「必要ない」と回答した。また、「研究をしている」割合は16.5%(前回17.6%)、「研究をしてみようと思う」割合は20.0%(前回21.5%)であった。今後、認定歯科衛生士や研究活動の重要性および必要性についてより積極的な啓発が必要である。

9.歯科衛生士としての仕事への意識は高いが、2割が転職の意向

「現在の仕事にやりがいを感じている」、「歯科衛生士の仕事が好きである」、「歯科衛生士免許の価値を感じている」、「歯科衛生士として誇りを感じている」割合はおよそ8割を超え、仕事に対する意識は高かった一方で、労働環境や雇用条件に満足している割合は約4割であった(図4)。「現在、転職または勤務先を替えたい」割合は、17.7%であり、「仕事上でのストレスを感じている」割合は67.1%、「職場でハラスメントをうけたことがある」割合は40.1%であったことより、歯科衛生士会としても雇用者をサポートする取り組みを検討する必要があると考える。

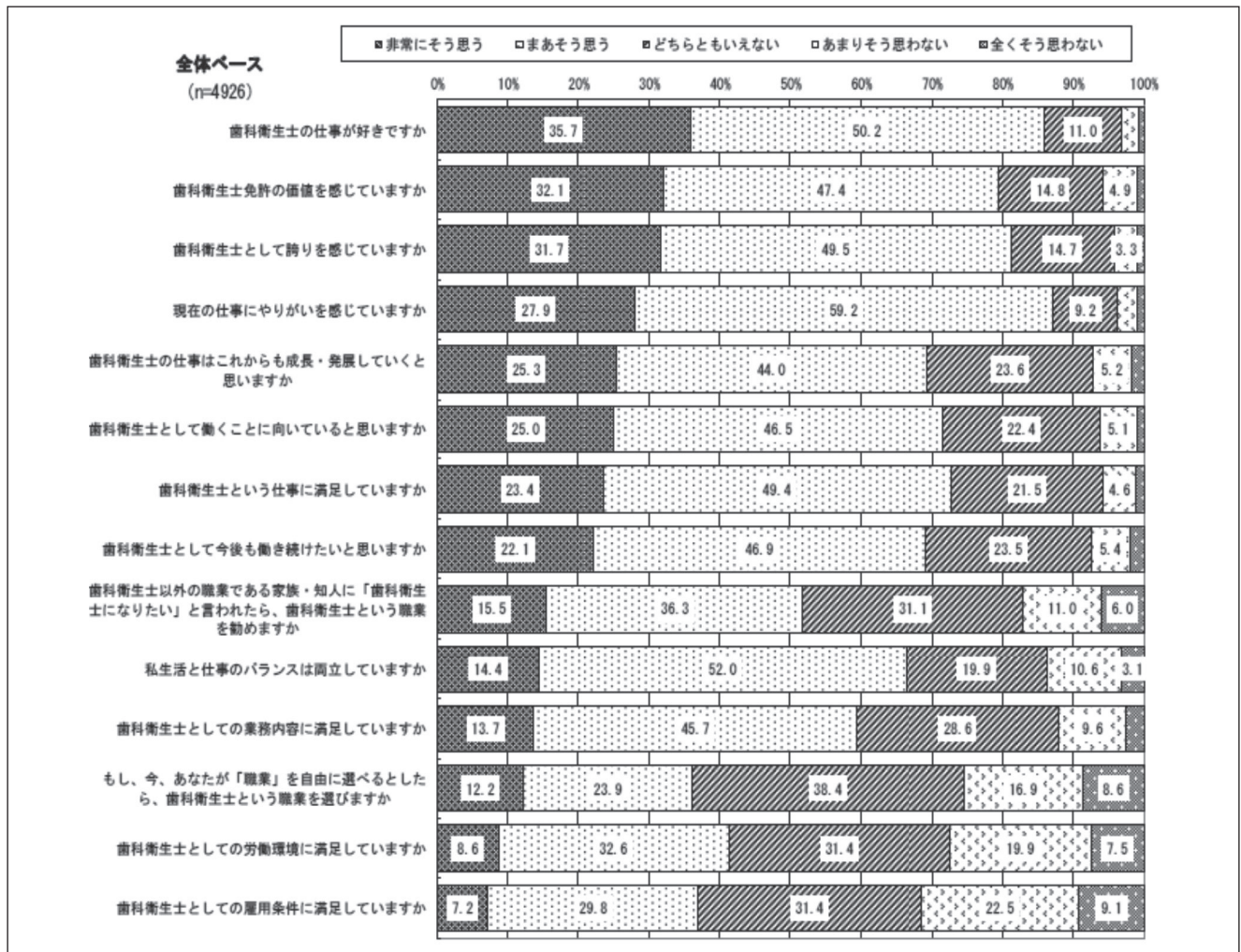


図4 歯科衛生士としての仕事に対する意識について

まとめ

これらの結果を踏まえ、日本歯科衛生士会としては、若年層の育成・確保につながる魅力ある組織づくり、専門性の向上、働きやすい職場環境の整備、そして地域に根ざした歯科保健活動の推進に取り組む必要がある。今後の政策提言や支援策の基礎資料として、本調査結果が広く活用されることが期待される。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 調査委員会 安達 奈穂子)



第7回サンスター財団 世界歯科衛生士賞 募集のご案内

世界歯科衛生士賞は歯科衛生学や患者、地域社会、一般社会に優れた貢献をした歯科衛生士を称える目的で2004年に創設し、サンスターとは独立した専門家から成る選考委員会の厳正な審査により選出された歯科衛生士を表彰してきました。今回で7回目を迎え、世界中の歯科衛生士の中から、一般社会および歯科業界に貢献された方々を対象に、公衆衛生部門や臨床部門など全6部門で募集しています。

応募資格や選考基準、賞の詳細については、サンスター財団のホームページに掲載されています。

(<https://www.sunstar-foundation.org/en/awards/world-hygienist>)
各部門の受賞者は、2026年7月にイタリア・ミラノで開催される歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)での授賞式に招待されます。ISDHは世界の歯科衛生士が一堂に会する国際シンポジウムです。研究成果を世界の歯科衛生士に向けて発信できる、またとないチャンスです。奮ってご応募ください。



(国際協力委員会)

応募期限

2026年1月16日(金)午前8時

受賞部門ならびに賞の概要

	受賞部門ならびに賞の概要
1	公衆衛生部門
2	臨床部門
3	アカデミア部門
4	アントレプレナー部門
5	新人歯科衛生士部門
6	リサーチ部門

各分野の最も優秀な1名に、1500ドル+2026年7月にイタリア・ミラノで開催されるISDHの参加費、参加旅費を支給

令和6年度 認定歯科衛生士の紹介

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士制度規則に基づき、認定分野別に生活習慣病予防(特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)37名、摂食嚥下リハビリテーション33名、在宅療養指導・口腔機能管理31名、糖尿病予防指導32名、医科歯科連携・口腔機能管理21名、歯科医療安全管理31名、障害者歯科30名、老年歯科6名、口腔保健管理4名、う蝕予防管理5名、研修指導者・臨床実地指導者39名、合わせて269名の方々を認定歯科衛生士名簿に登録し、認定証を交付いたしました。各分野において認定歯科衛生士として活躍されることを期待します。

【認定分野A】生活習慣病予防(特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)

〈北海道〉 西辻 牧子 〈岩手県〉 小原 博子 富手 由歌里 〈宮城県〉 菅野 千春	〈栃木県〉 石渡 しのぶ 〈埼玉県〉 江森 理栄子 〈千葉県〉 佐藤 有美 窪田 千聡	〈東京都〉 安藤 さゆり 洲上 理美 〈神奈川県〉 中村 絵美 澤田 しのぶ	〈山梨県〉 坂野 さおり 若月 恵美 〈長野県〉 傳刀 仁美 〈新潟県〉 池田 裕子	〈静岡県〉 木下 玲子 〈三重県〉 藤森 悦世 前川 和子 南川 亜紀	〈京都府〉 福田 裕子 〈大阪府〉 前嶋 亜優子 藤塚 康恵 〈和歌山県〉 清水 里香	〈鳥取県〉 林 さゆり 〈島根県〉 佐久間 絵美 〈岡山県〉 橋本 美代子	〈広島県〉 山脇 真衣 奥河 知恵 田原 よしえ 〈福岡県〉 本田 智恵子 安部 真由美 〈大分県〉 麻植 雅	〈宮崎県〉 圓目 真夕 日高 舞子 〈鹿児島県〉 益満 由紀子 〈沖縄県〉 大湾 里保
--	---	---	--	--	---	--	---	---

【認定分野A】摂食嚥下リハビリテーション

〈北海道〉 溝口 範子 〈岩手県〉 門間 奈美	〈茨城県〉 市塚 裕子 〈埼玉県〉 佐藤 康子	〈東京都〉 細田 久子 北澤 浩美 鈴木 美樹 中浜 恵	〈神奈川県〉 池田 千亜紀 加藤 理恵子 〈長野県〉 古川 由紀子	掛川 浩代 〈新潟県〉 常田 久美子 〈富山県〉 岸田 文子 〈岐阜県〉 高橋 真紀	上田 亜海 〈静岡県〉 新城 玲子 玉澤 智美 〈愛知県〉 村上 智子 清水 明美	石黒 朋枝 中野 尚恵 〈大阪府〉 白居 綾子 〈兵庫県〉 林 美保	〈奈良県〉 武田 好美 〈和歌山県〉 山東 理沙 神屋敷 久美 〈広島県〉 先家 道子	〈徳島県〉 岡田 恵美 〈高知県〉 内平 真実 和田 和枝 〈熊本県〉 熊谷 佐江子	〈沖縄県〉 波照間 克子
----------------------------------	----------------------------------	--	---	--	---	---	---	--	-----------------

【認定分野A】在宅療養指導・口腔機能管理

〈北海道〉 安藤 寛子 小林 早苗 〈青森県〉 木村 寿子	〈福島県〉 水谷 智子 〈埼玉県〉 川部 和美	〈東京都〉 吉田 純子 〈石川県〉 向 真紀	〈岐阜県〉 大西 真由美 〈愛知県〉 近藤 三千代 神田 明美	田中 知子 近藤 明子 〈三重県〉 山崎 宏美 橋本 仁美 中 真弓	〈大阪府〉 森本 清香 友田 直美 高野 ひとみ 栗山 智代 柳 美奈子	〈兵庫県〉 笠井 昌樹子 本間 京子 若園 優子 〈島根県〉 江角 知香	〈広島県〉 平尾 庸子 〈山口県〉 今田 千恵美 〈徳島県〉 寒川 百合子	〈香川県〉 山下 香里 〈愛媛県〉 今村 加奈子 〈福岡県〉 木原 万由子	〈鹿児島県〉 尾辻 美奈子
---	----------------------------------	---------------------------------	---	---	---	---	--	--	------------------

【認定分野A】糖尿病予防指導

〈北海道〉 瀧井 百合子 本間 貴子 〈青森県〉 石田 菜穂子	石塚 育子 〈岩手県〉 芳賀 光 〈宮城県〉 小野 ゆかり	〈東京都〉 小森 朋栄 蝦名 香織 松木 晴香 小林 文子	小澤 晴菜 宇原 由桂 〈神奈川県〉 富樫 美由紀 綿家 実千代	芳野 友美 〈長野県〉 田口 美菜 〈新潟県〉 樋口 聖子 〈岐阜県〉 山越 陽子	西田 里美 〈愛知県〉 酒井 美穂 〈三重県〉 笹間 滋代 中瀬 かおり 稲垣 奈央子	〈大阪府〉 梶 貢三子 香田 文 〈和歌山県〉 小園 歩 〈岡山県〉 柴田 恵子	〈徳島県〉 日浅 早紀 〈高知県〉 佐竹 由紀子 〈福岡県〉 荒巻 裕子	〈大分県〉 荻 由美 〈宮崎県〉 小川 沙織
---	---	---	--	---	---	--	---	---------------------------------

【認定分野A】医科歯科連携・口腔機能管理

〈福島県〉 遠藤 裕子 〈千葉県〉 鈴木 美紅 〈東京都〉 山中 由美 〈神奈川県〉 安部 晴美 〈新潟県〉 山城 知子	田中 恵子 〈岐阜県〉 高松 磨由子 〈静岡県〉 小川 早代 梅原 未希 出口 智秋 〈愛知県〉 市橋 佑奈 田中 紘子 三浦 萌香	〈京都府〉 東光 里恵 〈大阪府〉 小川 早代 森岡 紗代 〈岡山県〉 真木 礼	〈広島県〉 森田 紀子 〈山口県〉 奥野 奈々 〈愛媛県〉 古田 久美子 〈香川県〉 北岡 直美 〈大分県〉 阿南 智子
---	--	--	---

【認定分野A】歯科医療安全管理

〈青森県〉 山口 景子 〈岩手県〉 中村 胡桃 〈宮城県〉 辻 友紀 〈福島県〉 遠藤 裕子 〈埼玉県〉 築井 雅美	岡田 弥佳 石井 杏奈 上原 祥子 久下 玲子 齋藤 友美 室岡 仁美 藤崎 さやか 熊谷 美奈	〈神奈川県〉 赤松 知美 〈千葉県〉 原田 彩加 〈岐阜県〉 川島 輝子 〈愛知県〉 水草 あゆみ 〈滋賀県〉 谷 亜希奈	〈京都府〉 門野 節子 新城 朋子 相原 直子 永田 節子 直島 舞 〈兵庫県〉 角田 安佳梨 岡本 未沙稀	〈和歌山県〉 太田 仁美 〈鳥取県〉 谷口 美帆 〈徳島県〉 上田 甲奈 〈愛媛県〉 壽川 明音 〈福岡県〉 浪辺 陽子 〈大分県〉 阿南 千春
---	---	--	--	---

【認定分野B】障害者歯科

〈岩手県〉 菅原 有希 〈栃木県〉 益子 恵 山上 香 〈群馬県〉 清水 美咲 〈埼玉県〉 君塚 沙紀 〈東京都〉 小山 璃子 本田 彩	今井 由美 川邊 靖子 岩澤 依充子 小南 奈央 井口 彩月 小野 菜月 〈神奈川県〉 岩田 早苗 加藤 仁美 植松 里奈 〈新潟県〉 阿部 友見	〈岐阜県〉 松尾 友紀 〈静岡県〉 塚本 真由奈 〈愛知県〉 内藤 抄織 〈大阪府〉 下井戸 恵 金沢 梨絵子 〈兵庫県〉 保西 有希子 澁谷 瑠里	寺本 佐苗 〈熊本県〉 日永 智子 〈大分県〉 山下 里織 池見 佳子 〈沖縄県〉 崎原 美奈子 仲島 瑠菜
---	--	---	--

【認定分野B】老年歯科

〈東京都〉 大沢 由美 稲葉 華奈子 関 麻衣子 〈神奈川県〉 横山 混介	〈広島県〉 中濱 加奈子 〈福岡県〉 山本 愛里
--	-----------------------------------

【認定分野B】口腔保健管理

〈新潟県〉 齋藤 綾子 〈兵庫県〉 有本 錦	〈岡山県〉 堀田 佳美 〈香川県〉 山地 加奈
---------------------------------	----------------------------------

【認定分野B】う蝕予防管理

〈宮城県〉 石井 京子 飯田 光望 高橋 優佳	〈東京都〉 福本 葉子 〈大阪府〉 三方 菜々子
----------------------------------	-----------------------------------

【認定分野C】研修指導者・臨床実地指導者

〈秋田県〉 齋藤 友里奈 野村 美奈	〈栃木県〉 椎橋 桂子 大海 真貴子 川部 和美	〈東京都〉 上田 美妃 鈿持 郁 小澤 晴菜	〈神奈川県〉 竹山 淳子 〈山梨県〉 小林 かおり 石原 ひろ子	〈長野県〉 吉川 由紀子 〈愛知県〉 金原 理佳 都築 裕代 八柳 春菜	〈岐阜県〉 藤田 莉早 堀 佐和子 宮崎 玲菜 〈京都府〉 田中 絵美 福田 裕子	〈大阪府〉 安栗 直美 内浦 直子 金子 信子 樋口 敦子 西村 優衣 松井 美結	國嶋 愛美 〈兵庫県〉 池田 恵理 宮澤 絢子 〈奈良県〉 今田 昭子 乾 美保	〈岡山県〉 重田 雅奈江 〈徳島県〉 丸崎 愛 石井 容子 〈香川県〉 土田 佳代	〈福岡県〉 辻 恵子 〈大分県〉 原 徳美 大鍋 優香 川村 佳美
--------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	--	---	---	---	--	---	--

災害歯科保健歯科衛生士の体制変更について

いつも災害歯科保健活動にご協力いただきありがとうございます。令和6年元日に発生した能登半島地震においてJDAT（日本災害歯科支援チーム）が本格稼働したことで明らかになった課題や、支援に関わった都道府県会から上げられた意見に対応するため、災害歯科保健歯科衛生士の体制を変更します。主な変更点は以下のとおりです。

① 都道府県会における災害支援活動の中心となる役割を「ロジスティクス」に統合します。(図1)

JDATの一員として支援活動に入る基盤ができたことから、ロジスティクス3名体制とし、3名のうち1名が「統括」となりリーダーの役割を担うこと、3名のうち1名は都道府県会または支部等の役員とすることで会執行部との情報共有・連携を図りつつ、発災時のロジ（業務調整）機能の遅滞や停止を防ぎます。

② 災害歯科保健歯科衛生士の登録有効期限を4年間に延長します。

災害歯科保健歯科衛生士は、JDATの一員として支援活動を展開すること、また受援についても理解することから、その登録要件となる研修をJDAT活動の基礎理解に関する研修に変更します。併せて登録有効期限を従来の3年間で4年間に延長します。そしてこの研修の積極的な受講を進めるため、今年度が更新に該当しない方（令和6年度登録者）も受講可能とし、その場合は有効期限を令和11年度まで、に延長します。

③ 災害歯科保健歯科衛生士の登録方法

育成研修：新規登録希望者対象

更新研修：既登録者対象

いずれも9月1日(月)～10月31日(金)eラーニング研修(期間中いつでも受講が可能)

受講要件：災害歯科保健歯科衛生士として登録意向のある方（活動に際しては日程等の提示を受け、参加可否を判断いただくことになります）

受講方法：所属の都道府県歯科衛生士会に連絡し、受講申請してください。都道府県歯科衛生士会から受講者リストを日本歯科衛生士会に提出いただき(8月中旬締切予定)、受講対象の方には8月末までに都道府県歯科衛生士会を通じて受講・登録方法をお送りします。

多くの皆様の受講・登録をお願いします。

現在、災害歯科保健活動歯科衛生士実践マニュアル2025作成中です。様式等の変更もありますので、ウェブサイトにもアップされましたら是非ご覧ください。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)

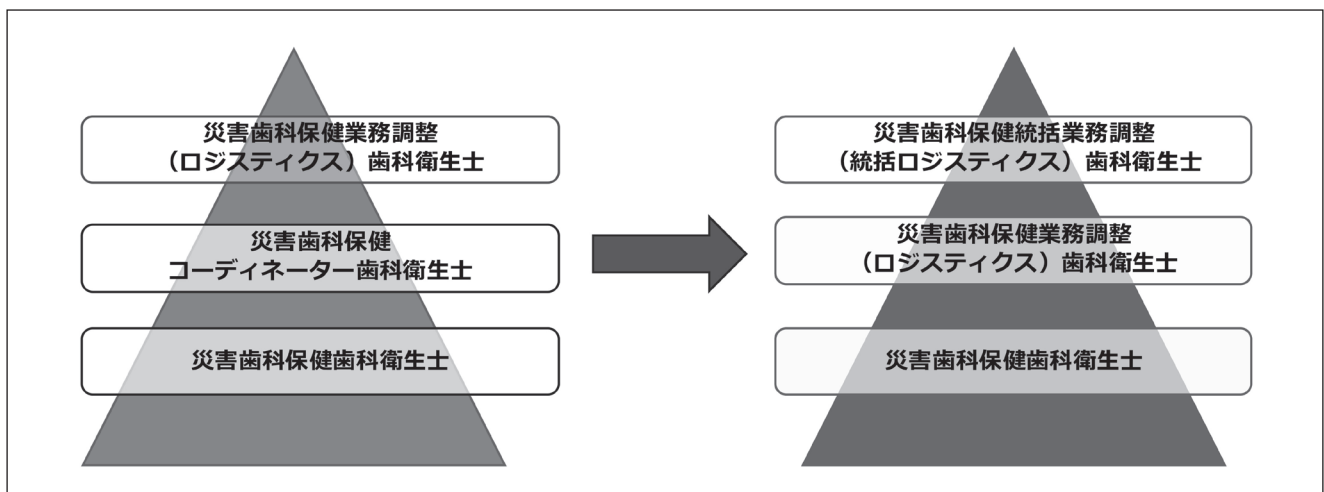


図1

令和7年度 歯科衛生士活動推進事業のお知らせ

日本歯科衛生士会歯科衛生推進委員会では、それぞれの現場で活躍する歯科衛生士が集い、同じ目的を持った仲間との情報交換や知識の共有、交流を図る機会を企画しました。

歯科衛生士たちのタッチポイントとなるこの機会に、ぜひともご参加ください!

目 的	保健医療福祉の動向に伴う歯科保健医療ニーズの変化に対応し、効果的な歯科衛生活動を実践するため、それぞれの分野で活躍する歯科衛生士への知識の提供、情報共有および交流を図り、歯科衛生士の活動を推進する
共 催	公益社団法人 日本歯科衛生士会・東京科学大学病院歯科衛生士総合研修センター
会 場	東京科学大学湯島キャンパス(東京都文京区湯島1-5-45)
日 時	令和7年11月1日(土) 13:30~16:30
参加対象者	行政・病院・診療所・在宅施設等に勤務する歯科衛生士
担当委員会	地域歯科保健委員会・病院委員会・診療所委員会・在宅施設口腔健康管理委員会

プログラム(予定)

時 間	内 容			
13:00	受付開始			
13:30 ~14:30	講演 「歯科保健医療の動向(仮)」 講師 厚生労働省医政局歯科保健課 課長 小嶺 祐子先生 (会場:3号館3階 医学科講義室2)			
14:30 ~14:50	休 憩(会場移動)			
14:50 ~16:30	各委員会主催プログラム(グループワーク・協議会・交流会等)			*プログラム内容調整中
	地域歯科保健委員会	病院委員会	診療所委員会	在宅・施設 口腔健康管理委員会
	【令和7年度行政歯科 衛生士研修 (講話・グループワーク)】 (定員:50名)	【全国病院歯科衛生士 連絡協議会】 (定員:50名)	【交流会】 (定員:30名)	【交流会】 (定員:50名)
	会場:3号館18階 保健衛生学科講義室1	会場:3号館8階 保健衛生学科講義室2	会場:3号館8階 保健衛生学科講義室3	会場:3号館7階 保健衛生学科講義室4
16:30	テーマ「わがまちの歯 科保健医療を考える ~10年後を見据えて 今何ができるか~」	テーマ「病院における 歯科衛生士の役割」	テーマ「目指せ専門歯 科衛生士! 歯周基本治 療ラダー(仮称)の活用」	テーマ「施設における 口腔健康管理を担う 歯科衛生士の役割」
	終了	終了	終了	終了
	終了	終了	終了	終了
	終了	終了	終了	終了

参加申し込みについて

日本歯科衛生士会ウェブサイトおよび公式Instagramにて、ご確認ください。皆様の参加をお待ちしております。
会員外の方も受け付けます。定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

令和7年度「歯科衛生士復職支援・ 離職防止等研修指導者養成研修事業」について

今年度も厚生労働省の補助事業として標記の研修事業を下記のスケジュールにて行います。本事業は、新人歯科衛生士の離職防止と復職支援を地域において実践する指導者を養成するための研修です。歯科衛生士不足を解消して歯科衛生士の専門性を高めるために、本研修の受講は欠かせません。今年度も具体的な新人歯科衛生士の育成プログラム等を紹介する予定です。研修対象者は、①都道府県歯科衛生士会の企画運営を担当する者、②歯科衛生士養成機関の専任教員、実習指導員、③臨床実習施設等で指導を行っている者、④ ③のほか、臨地実習施設等で指導を行っている者です。

令和6年度に引き続き、オンラインで開催いたします。本会ウェブサイトにて受講生を募集いたします。詳細につきましては、右記の二次元コードよりご確認ください。



	研修日程(オンライン開催)
第1回	令和7年10月12日(日)~13日(月・祝)
第2回	令和7年12月13日(土)~14日(日)
第3回	令和8年 1 月11日(日)~12日(月・祝)
第4回	令和8年 1 月31日(土)~2月1日(日)

Linking JDHA to IFDH

「International Journal of Dental Hygiene」

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトに直接アクセスできるように、二次元コードを公開いたします。有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。(FAX 03-3209-8023)



国際歯科衛生誌

2025年5月 第23巻2号

本号は原著論文を中心に24編で構成されています。本会会員が歯学部学生を対象に行った研究報告も掲載されています。本号に掲載された論文のうち9編は無料で閲覧が可能です。アブストラクトだけでもご一読いただき、世界各国で行われた口腔保健に関する幅広いテーマの研究にふれていただければと思います。ご興味のある方はこの機会にお読みください。

※最新の情報をお届けするため、Instagramで先行発信を行っています。本会公式アカウントをフォローしてご確認ください。

IJDH 第23巻2号



JDHA公式 Instagram



(公益社団法人 日本歯科衛生士会 国際協力委員会 茨木 浩子)

理事会報告

令和7年度第1回理事会が令和7年5月18日(日)に開催された。審議事項と報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和6年度事業報告(案)について
 - (2) 令和6年度決算報告(案)について
 - (3) 令和6年度事業報告に係る提出書(内閣府)について
 - (4) 令和7年度定時代議委員会の概要(代議員会運営規則第2条第1項7号イ及び第2項関連)について
 - (5) 定款施行規程等の一部改正について
 - (6) 定款・諸規則の配布について
 - (7) 令和7年度会長表彰について
 - (8) 令和7年度「地域歯科衛生活動」助成事業について
 - (9) 新入会員の承認について
 - (10) 会員証のデジタル化について
 - (11) 申請書類オンライン作成システムの導入について(継続審議)
 - (12) 日本デンタルショー2025日本歯科衛生士会ブースの開設について
 - (13) 第70回日本口腔外科学会総会・学術大会「第17回歯科衛生士研究会」について
 - (14) 令和7年度歯科衛生士活動推進事業(仮称)企画(案)について
 - (15) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会との連携について
 - (16) 令和7年度子ども霞が関見学デーについて
 - (17) 75周年事業記念誌の作成について
 - (18) 75周年事業実行委員会の設置について
 - (19) 第47回総合学術大会(大韓歯科衛生士協会)への講演者等の派遣について
 - (20) その他
- ※当日追加議題 災害歯科保健歯科衛生士の研修体制の変更について

報告事項

- (1) 会務報告

- ① 業務執行理事等の職務執行報告
- ② 常務理事会の報告
- ③ 常任委員会等の報告
- (2) 監査実施報告
- (3) 代議員名簿(令和7年~令和8年)
- (4) 令和6年度地域歯科衛生活動事業助成実施報告書
- (5) 令和7年度歯と口の健康週間
- (6) 第82回全国小学生歯みがき大会組織会報告
- (7) 就業相談対応者講習会受講者アンケート報告
- (8) 令和6年度医療施設運営費等補助金「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業」の実績報告
- (9) 専門歯科衛生士制度検討小委員会報告
- (10) 歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会報告
- (11) 令和7年度「歯科保健指導用パネル」改訂検討委員会(母子保健推進会議)報告
- (12) 第34回歯科衛生士国家試験の実施状況
- (13) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (14) 令和8年度予算・制度などに関する要望書
- (15) 人事院規則九一八 医療職俸給表(二) 歯科衛生士初任給基準表の改正
- (16) 令和7年度愛知学院大学短期大学部歯科衛生士リカレント研修センター運営会議オブザーバーの委嘱
- (17) 老年看護学会第30回学術集会災害支援検討委員会主催交流集会「被災地における高齢者の口腔ケアを考える」の話題提供者推薦
- (18) 歯科ヒヤリ・ハット事例収集等事業総合評価部会委員の推薦
- (19) 日本口腔検査学会第3回国民皆歯科健診について考えるミーティングの講師派遣
- (20) 8020推進財団理事の推薦
- (21) その他